

2024年4月12日

熊本県知事交代に当たっての川辺川ダム問題に関する声明文

子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会 代表 中島 康

2024年3月24日に行われた熊本県知事選で木村敬氏が当選した。木村氏は、現職の蒲島郁夫氏と同じく、川辺川ダム問題については流水型ダム建設推進の立場を取ると、当会などが提出した公開質問状に回答している。

県知事交代に際し、川辺川ダム建設に反対する私たちは以下の通り考える。

現知事は、これ以上、ダム問題に関する手続きを進めるべきではない。先月、現知事は自らの任期中にダムなどの課題にメドをつけたいと述べたとされるが、もはや次期知事が決まった状態では、このような県政の重要課題については、任期切れ直前の前任者が手を出すべきことではなく、次期知事の判断にゆだねるべきである。それが新知事を選んだ県民の意思にも沿うことである。

木村氏は現知事のダム建設推進路線を引き継ぐという考えを取っているが、2020年7月の球磨川豪雨災害（以下豪雨災害）以来、この球磨川流域の治水対策を巡って、混乱を引き起こしたのは国土交通省のダム推進派とそれに追随することしか出来ない現知事を始めとする熊本県職員であることを胸に刻むべきである。

2008年9月、現知事は「球磨川そのものが地域の守るべき宝」として「ダムによらない治水対策を、極限まで追求する」と述べ、貯留型の川辺川ダム計画の白紙撤回を県民世論の圧倒的支持を背景として表明した。しかし、その後のダムによらない治水対策は遅々として言っていない程進まず、豪雨災害を引き起こした。豪雨災害は天災ではなく、行政の不作为による災害即ち人災である。現知事は、豪雨災害を奇貨として民意が「命と環境の両立」を求めているとして、「緑の流域治水」なるものを提唱し、その中の中心的な治水対策とされる流水型ダムを受け入れた。

豪雨災害の発生から3年以上経過したが、あれだけの被害を受けた被災者を始めとする球磨川流域住民の民意は、今でも「球磨川そのものが地域の守るべき宝」である。被災者はじめ流域住民から積極的にダムを望む声は聞こえてこない。球磨川水系河川整備計画策定段階での公聴会や国交省が実施している環境影響評価法に基づかない環境アセスでの公聴会でもダム反対の立場からの意見が圧倒的である。

新知事は、真摯にこのような声に耳を傾けるべきである。また、私たちは流域住民の民意が県政に反映され、この問題が解決されるまで、どんな知事であろうとも、運動を継続する。

以上

賛同団体

川辺川を守りたい女性たちの会 代表 原育美
清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会 共同代表 岐部 明廣
7・4 球磨川流域豪雨被災者・賛同者の会 共同代表 鳥飼 香代子 市花 保
美しい球磨川を守る市民の会 代表 出水 晃
坂本町被災者・支援者の会 代表 本田 進
ダムによらない復旧・復興を求める人吉・球磨の会 代表 林 通親
球磨川・川辺川を守る漁民有志の会 代表 吉村 勝徳
川辺川現地調査実行委員会 代表 茂吉隆典 中島康

本件に関する問い合わせ先

子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会

〒860-0073 熊本市西区島崎 4-5-13

TEL:080-3999-9928 FAX:0968-72-5604 Email: info@kawabegawa.jp